

令和6年度職員採用選考試験
看護 専門記述試験 (6.6.16)

＝ 課 題 ＝

○ 人工肛門を造設した患者の看護について

事例を読み、次の質問について、それぞれ記述しなさい。

事例 Aさん(58歳、男性)。1か月前からの残便感と、2週間前から血便を自覚し受診。検査の結果、直腸癌と診断された。腹会陰式直腸切断術及び人工肛門造設術を行うことの説明を受け5日後に手術が決定した。Aさんは説明に対して「がんを取り除くしかないですね。」と話した。5日後に手術が行われ、全身麻酔で手術時間4時間30分だった。術中の出血量は450mlで輸血なし。左下腹部に人工肛門を造設。硬膜外麻酔は術後3日間継続された。喫煙歴はあるが、既往歴はない。

術後1日目のAさんの状態は、体温37.5℃、呼吸数22/分、脈拍102/分、血圧130/80mmHg。Hb10.1g/dl。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉94% (酸素吸入3l/分)。尿量100ml/時。創部ドレーンからは淡血性少量の排液がある。白色の喀痰が多く、咳嗽とともに創痛も強く生じている。排ガスはあり、ストーマは腫脹しているが鮮紅色である。

(1) Aさんの術後の糞便の形成及び排便の機能はどのような状態になったのか、大腸及び直腸の機能から説明しなさい。

(2) 術後1日目のAさんの状態についてアセスメントしなさい。また、どのような看護が必要か説明しなさい。

(3) 術後3日目に看護学生BがAさんの受け持ちを始めた。Aさんは術後順調に回復している。術後のストーマケアはすべて看護師と学生が行っていた。

術後6日目に学生は看護師からストーマのセルフケアに向けての援助をするように指導を受け、ストーマの観察を促す計画を立てた。

次の場面はその実施場面である。

学生B「Aさんと一緒にストーマの観察をしようと思いますがよろしいですか？」

患者A「お腹を見るの？お腹は変わらないから、見なくてもいいよ」

学生B「ストーマの手当てができるようになってほしいので、一緒にしましょう」

患者A「学生さんが勝手にやってくれ！」

学生Bは、実習指導看護師へ「Aさんに断られました。どうしたらよいかわかりません」と相談に来た。

①このようなAさんにどのような看護が必要か、あなたの考えを答えなさい。

②あなたが実習指導看護師だったら、教育的なかかわりとして、学生Bにどのような声をかけるか、具体的な発言とその意図を述べなさい。